

## 平成 26 年度 特別養護老人ホーム風の木苑事業計画報告書

H26 年度は、可能な限り居宅における生活への復帰を念頭に置き、入居者の尊厳と家族の要望に適切に応え、満足感を満たすことが出来る施設サービスを行った。運営面ではサービスの質の向上と透明性を確保しつつ、諸経費削減等の運営改善を進めながら、経営の安定化を図っていくように目標を立てた。

この目標を行って行く上で、5 つの運営方針（①ユニットケアの充実 ②地域連携の強化 ③ショートステイ事業の充実 ④施設運営の円滑化 ⑤専門職としての資質の向上）を掲げ、現実化に向けてサービスを行った。

### （1）記録に基づいた的確なサービスの実施

全職員が統一した動作・手順でケアができるように 24 時間シートを半年に 1 回及び、大きな変更があった時には適宜見直しを行い、ケアプランとの連動を図った。また、文面だけでは伝わりにくいポジショニングや、約束事等は写真や文章にしたものを居室に貼り、統一したケアを提供している。看取りケアに対してはご家族様とのカンファレンスを通して、安楽に最後を迎える事ができる様にケアの充実を図る事が出来た。コミュニケーション力や記録・記述力に関しては、定期的に勉強会を行っているので、更なるスキルアップを目指していく。

### （2）地域交流と施設の活動

地域行事については地域住民の一員として、運動会、餅つき、さくら祭り等の行事に職員が参加する事ができた。また、施設行事のクリスマス会、夏祭り等にも地域の方に来て頂き、地域住民と施設の連携を図ることができた。さらに地域ボランティアの協力・活用におきましては書道、大正琴、琵琶演奏会などの取り組み、西原中学校の合唱や西原乳幼児園のお遊戯、体験学習等さまざまな交流活動を行った。又地域運営推進会議にて、施設行事や入居者の生活の様子を紹介を行った。風の木苑ホームページ上でも行事等の活動紹介を行っている。

### （3）ショートステイにおけるサービスの向上

利用者一人一人の個性やリズムにあった生活を送れる様ユニットケアの特徴を活かしたケアの実現の為、家族や担当ケアマネと連携をとりながら職員も情報を共有しサービス提供にあたった。サービス終了後は毎月担当ケアマネへ利用報告書を作成し、連携の強化に努めた。ホームページへ空き情報を毎週更新し、情報発信に努めた。

(4) 各委員会・部門委員会等開催の徹底

各職務部所間の連携、コミュニケーションを密に行うため、施設内外の研修を行い、月に1回あるユニット・フロア会議、各委員会で全スタッフが意思の統一を図ることができた。

また、入居者の確保については、申し込みをされている方（上位者）へこまめな連絡を行い、状況把握を行った。

(5) 事業基本理念に即した社会福祉人材育成の為に研修派遣

施設内での研修は、月に2～3回介護、医療を含め、実践を踏まえた様々な研修を行っている。また、新人研修を年度初めに行っている。

施設外研修では、スタッフ自ら参加しスキルアップを図っている。